

## I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	諫早市立明峰中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4		12	26
生徒数	129	135	130		394	

## II 研究の概要

## 1. 研究主題

確かな学力の定着をめざして — 生徒指導の充実・教育課程の編成をとおして —

## 2. 研究内容と方法

## (1)実施学年・教科

1人教科の音楽と美術を除き、全学年T・Tを組んで確かな学力の定着をめざして取り組んでいる。全教科で取り組んでいるが、以前より研究に取り組んでいる数学と英語を研究教科としている。

## (2)年次ごとの計画

平成15年度	<p><b>[テーマ]</b>            確かな学力の定着をめざして — 生徒指導の充実・教育課程の編成をとおして —</p> <p><b>[研究の見通し(仮説)]</b>            基本的な生活習慣や学習習慣を確立し、個を生かす的確な指導場面を設定することによって、確かな学力の向上が図られるであろう。</p> <p><b>[研究内容・方法]</b>  <b>〈全体の取り組み〉</b></p> <p><b>[学力のとらえ方]</b>            本校では学力を多面的にとらえ、知識理解を基本とする学力、今からの国際社会の中で求められる「コミュニケーション能力」学ぶ以前の根っことなる「姿勢・心」「興味関心を持った意欲的な取り組み」「自分の考えを人にうまく伝えるゆたかな表現力」さらに「総合的に育成される生きる力」などを含めて学力ととらえている。それは、基本的な生活習慣や学習習慣の定着の上に成り立つ、つまり社会生活の中で身についた能力が「学力」形成の基盤になるととらえている。</p> <p>そこで本校では学ぶ以前の根っことなる「姿勢・心」から「生きる力」を育成するまでの多面的な学力を構想図(図1)としてまとめた。その学力を支援するために必要なシステムを構築した。教職員等や保護者・地域の学力向上における支援システム(図2)である。支援システムの1つである教科指導の面で、音楽と美術を除き、全学年T・Tを組んで確かな学力の定着をめざして指導体制(表1)をつくり取り組んでいる。</p>
--------	--

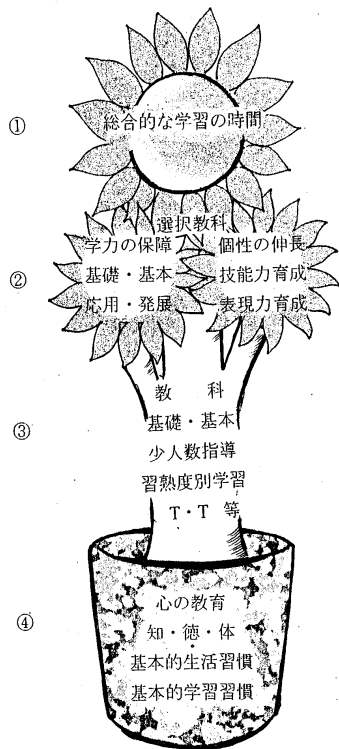


図1

- ①・②・・・表現力の育成
- ①・②・③・・・学ぶ意欲
- ②・③・・・思考力
- ④・・・判断力
- ①・・・生きる力
- ②・③・・・個への対応
- ③・・・学力の定着
- ④・・・学習環境の確立
- ①・②・③・④・・・生きる力(形成)
- ①・②・③・・・自ら考え解決する力を含んだ学力
- ②・③・・・知識理解を中心とする学力
- ③・④・・・根っこの学力

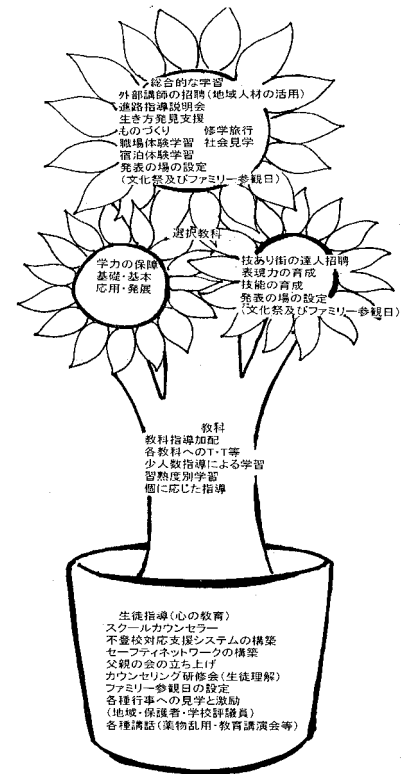


図2

表1

氏名	学年	教科 総時数	1年							2年							3年																											
			教科 時数	1	2	3	4	進 現	進 基	道 徳	学 活	総 合	小 計	教科 時数	1	2	3	4	進 現	進 基	道 徳	学 活	総 合	小 計	教科 時数	1	2	3	4	進 現	進 基	道 徳	学 活	総 合	小 計	教科 のみ	教科 選択	時数合 計						
国語	土肥 翠	1年	40	16	○	○	○	○	○	○	○	19.2	12											2.4	1	12										2.7	18	17.2	19.2					
	酒井 俊之	2年										2	0		○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	15.4													2.7	4	16	17	19.4			
	鶴田 真代子	3年										2	0.2										2.4	0												2.7	20.4	12	15.9	20.6				
社会	牧本 勝治	3年	33.6	12		○						2	3.2	12	□	□	□	□					2.4	4	9.71	□	□	□	□									2.7	9.58	13.88	14.1	16.76		
	藤山 泰子	2年			○							2	3		○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	17.4													2.7	0	15	16	20.4			
	橋 明彦	3年			○	○						2	6										2.4													2.7	13.56	12.56	14.56	19.56				
数学	力野 理史	3年	36	12								2	0	12									2.4	0	12	△	△	△	△										2.7	13.7	10	11	13.7	
	伊藤 秀俊	3年	20	4								2	0	8	△	△							2.4	4	8	○	△	△	△									2.7	15.7	14	15	19.7		
	原 和典	1年			○	○	○	○	○	○	○	2	16.2			△	△						2.4	4													2.7	0	16	16.2	20.2			
理科	城戸 由紀子	2年			□	□	□	□				2	4		○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	17.4															2.7	16	17	21.4		
	山口 誠雄	1年	33.2	12	○	○	○	○	○	○	○	2	16.2	12	○	○							2.4	6	9.16													2.7	0	18	18.2	22.2		
	草野 千穂	3年										2	0		○	○							2.4	7														2.7	13.86	15.16	18.16	20.86		
音楽美術	小山 薫	2年	13.2	5.16	○	○	○	○	○	○	○	2	5.86	4	○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	7.4	4	○	○	○	○										2.7	5.7	13.16	16.56	18.96	
	柴田 貴子	3年	13.2	5.16	○	○	○	○	○	○	○	2	5.86	4	○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	5	4	○	○	○	○										2.7	10.4	13.16	16.56	21.26	
	教頭 兼元 美菜		31.2	10.28								2	0	10.28	□	□	○						2.4	3	10.28	□	○													2.7	5.14	7.14	8.14	8.14
保健	藤本 忠康	2年			○	○	○					2	5.84		○	○	○						2.4	8.54														2.7	5.7	14.28	17.88	20.08		
	高橋 秀枝	1年			○	○	○		○	○	○	2	9.84		○								2.4	5.14			○	○	○										2.7	6.84	15.42	17.82	21.82	
	壺川 秀文	2年	24	8	□	□	□	□	○			2	4.7	8	○	○	○	○	○	○	○	○	2.4	9.4	4	□	□	□	□											2.7	5.7	12	15.4	19.8
技家	羽原 弘子	1年			○	○	○	○	○	○	○	2	6.7		□	□	□	□	○				2.4	9		○	□	□	□	□										2.7	5.7	16	19.4	21.4
	寺田 智子														□	□	□	□	○					5															1.7	4	6.7	6.7		
	渡部 隆	1年	38	12	○	○	○	○	○	○	○	2	16.2	12	□	□	□	□					2.4	4	12														2.7	1	16	17.2	21.2	
英語	清水 悦子	3年			□	□	□	□				2	4										2.4	0		○	○	○	○											2.7	15.7	16	17	19.7
	吉武 リカ	2年			□	□	□	□				2	0										2.4	17.4		□	□	□	□										2.7	4	16	17	21.4	

△は2時間、□は1時間

### 《生徒指導の充実》

全職員の協力体制を確立し、生徒に対する共通理解を深めるために生徒指導部会・学年部会・就学指導委員会・職員会等の連絡や情報交換等を行い全職員の連携を密に取ってきた。

不登校生徒や問題行動をおこす生徒への対応については、日頃から全職員で積極的に取り組み、特にスクールカウンセラー、不登校生徒支援教諭と連絡を密にしながら積極的な生徒指導(心の教育)に努めた。なお一層生徒理解を深めるために臨床心理士や裁判所調停員を招いてカウンセリング研修会を行った。

また、「自分たちの子は自分たちで守る，地域の子は地域で育てる」という目的でセーフティネットワークを構築した。保護者・地域・各種団体の協力体制を作り上げた。

### ＜教育課程の編成＞

音楽・美術を除く全教科でT・Tを組んで確かな学力の定着をめざして取り組んだ。少人数指導，個に応じた指導などを充実させるためにT・Tの授業をできるだけ確保するように時間割作成の段階から工夫した。

「総合的な学習の時間」では「姿勢・心」「興味関心を持った意欲的な取り組み」「自分の考えを人にうまく伝えるゆたかな表現力」「コミュニケーション能力」を育成するために、各学年で次のことに取り組んだ。主なものとして1年生では「新しい自分を発見する」宿泊学習と社会見学，2年生では「人は何を求めて生きるのだろう」という学年テーマで職場体験学習と修学旅行，3年生では「自分の進路を見つめよう」という学年テーマでものづくりや生き方発見（外部講師の招聘）に取り組んだ。文化祭やファミリー参観日を発表の場とした。

「選択教科」では、基礎・基本的な学習，課題学習及び発展的な学習，表現力の活用・育成等をめざして全学年取り組んだ。

### ＜教科による取り組み＞

#### [数学科]

#### 1. 研究テーマ

数学科における学力充実のための取り組み—少人数・習熟度学習をとおして—

#### 2. 研究の見通し(仮説)

生徒の能力，適性における個人差が学年の進行に伴い拡大している現状において，量的個人差（到達度，学習速度），質的個人差（学習スタイル，興味・関心）に応じ，自ら学ぶ意欲を育てる多様な学習活動を行えば，学力の充実が図れるであろう。

#### 3. 研究の内容・方法

##### (1) 必修教科

- ① T・Tの授業形態では，学習内容別に，また，1単位授業の中でも授業形態を変え指導を行い，基礎・基本の確実な定着を図り，自ら学ぶ意欲を育てる指導を行う。
- ② 各単元のまとめでの，習熟度別学習では，基礎基本コース，確認コース，発展コースの3コースにわけ，自己にあったコースを自己選択し取り組む習熟度別学習を行う。また，より適切な問題（コース）を自己選択できるように，普段の授業で自分の理解度を意識させる。

##### (2) 選択数学の選択幅の拡大と充実

生徒の主体的な学習を促進するために，選択数学の選択幅として，補充的な学習コース，課題及び発展的なコースを設定。

補充的な学習コースでは，特に系統性が高く，数理的に考察することが多い方程式，関数の単元を中心に補充的な学習を行う。また，生徒一人ひとりの学習の到達度，学習速度の個人差に対応するために，個別指導を重点的に行う。

課題及び発展的なコースでは，生徒一人ひとりの学習の興味・関心に対応するため，必修教科の数学の授業で学習した内容よりさらに進んだ内容や，自ら課題を設定し追究する学習を行う。

##### (3) 家庭学習の効果的な方法（宿題の与え方等）

数学では，どのような家庭学習の行ない方をするほうが効果的か指導する。また，宿題の与え方について研究を行う。

##### (4) 評価規準・基準の見直しと評価方法の工夫

- ① 評価規準を見直す。

②評価場面（方法）を各観点別の評価規準1つ1つについて作成を行い、指導と評価の一体化を図る。

## [英語科]

### 1. 研究テーマ

基礎・基本の定着を図る学習活動をめざしてT・Tのよさを生かしたきめ細やかな英語指導の展開

### 2. 研究の見通し(仮説)

英語科においても基本的な学習習慣・基本的な生活習慣を基にしながら個に応じた指導方法・指導体制の工夫や改善，発展的な学習や補充的な学習など一層の学習指導の充実を図り，生徒にきめ細やかな指導を展開すれば，生徒は基礎的・基本的な内容を確実に身につけ，日頃の学習に意欲的に取り組むだろう。

### 3. 研究の内容・方法

本校英語科の基礎・基本

- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・基礎的な知識・技能を身につけ，実践的コミュニケーション能力を養う
- ・言語や文化に対する関心を深め，国際理解の基礎を培う

#### 1) 取り組みの内容

- ・基礎・基本を確実に定着させる。
- ・知識や技能だけでなく，学習習慣，学び方，学ぶ意欲，英語での表現力も育てる。
- ・学習形態を一斉，グループ別，個別と工夫しながらきめ細やかな指導を行う。
- ・生徒に自分の習熟の程度に応じて3種類課題プリント（基礎・発展・応用）を選択させ，目的意識をもって学習に取り組ませる。
- ・基礎・発展・応用3種類のプリントは学力の違いを生徒が意識しないようなネーミングや提示の仕方など配慮する。
- ・家庭学習日頃から出すように心がけ学習習慣を身につけさせる。（自主学习ノート提出も）

#### 2) 基礎・基本の定着のための工夫

	指導方法
課題 プリント	・基本問題（ドリルなど）は一斉に解答解説する。 ・基礎・発展・応用など習熟度別に準備して生徒に選ばせる。 ・応用問題は解答を配布するだけのときもある。
音読	・特に対話文はパートを分担して教師のスキットを見せる。 ・机間指導できめ細かい指導
本文読解 プリント	・3種類の習熟度別の問題を準備して生徒に選ばせる。 ・本文によって読解は一斉に行う。
自己評価表	・ノートに自己評価表を添付させ，自己確認のために行う。
アンケート	・生徒の希望，学習の取り組みなどを把握する。
コミュニケーション 活動	・生徒の様子がよく観察や支援ができるように少人数に分けてコミュニケーション活動をさせる
家庭学習	・自主学习ノートで個に応じた指導，コメント

(平成15年度の研究の継続として)

**[テーマ]**

確かな学力の定着をめざして — 生徒指導の充実・教育課程の編成をとおして —

**[研究の見通し(仮説)]**

基本的な生活習慣や学習習慣を確立し、個を生かす的確な指導場面を設定することによって、確かな学力の向上が図られるであろう。

**[研究内容]**

**＜生徒指導の充実＞**

平成15年度の研究を継続し、基本的な生活習慣・基本的な学習習慣を確立するため、生徒指導(心の教育)の充実につとめ、教職員等及び保護者・地域の支援システムを構築し、学力向上を図る。

全職員の協力体制を確立し、生徒に対する理解も深めるためにさらに生徒指導部会・学年部会・就学指導委員会・職員会等の連絡や情報交換等を行い全職員の連携を密に取っていく。

不登校生徒や問題行動をおこす生徒への対応については、日頃から全職員で積極的に取り組み、関係機関等と連絡を密にしながらか生徒指導の充実に努める。

地域との連携をさらに深め、例えば昨年度構築したセーフティネットワーク等を継続し、保護者・地域・各種団体による教育環境の充実に努めていく。

**＜教育課程の編成＞**

可能な限り全教科でT・Tを組んで確かな学力の定着をめざして取り組んでいく。そのためにT・Tの授業をできるだけ確保していくように努める。

「総合的な学習」では各学年で生徒・地域の実態などをふまえて学年テーマを決めて取り組んでいく。また「自分の考えを人に伝えるゆたかな表現力」「コミュニケーション能力」を育成するために文化祭やファミリー参観日を発表の場を設けていく。

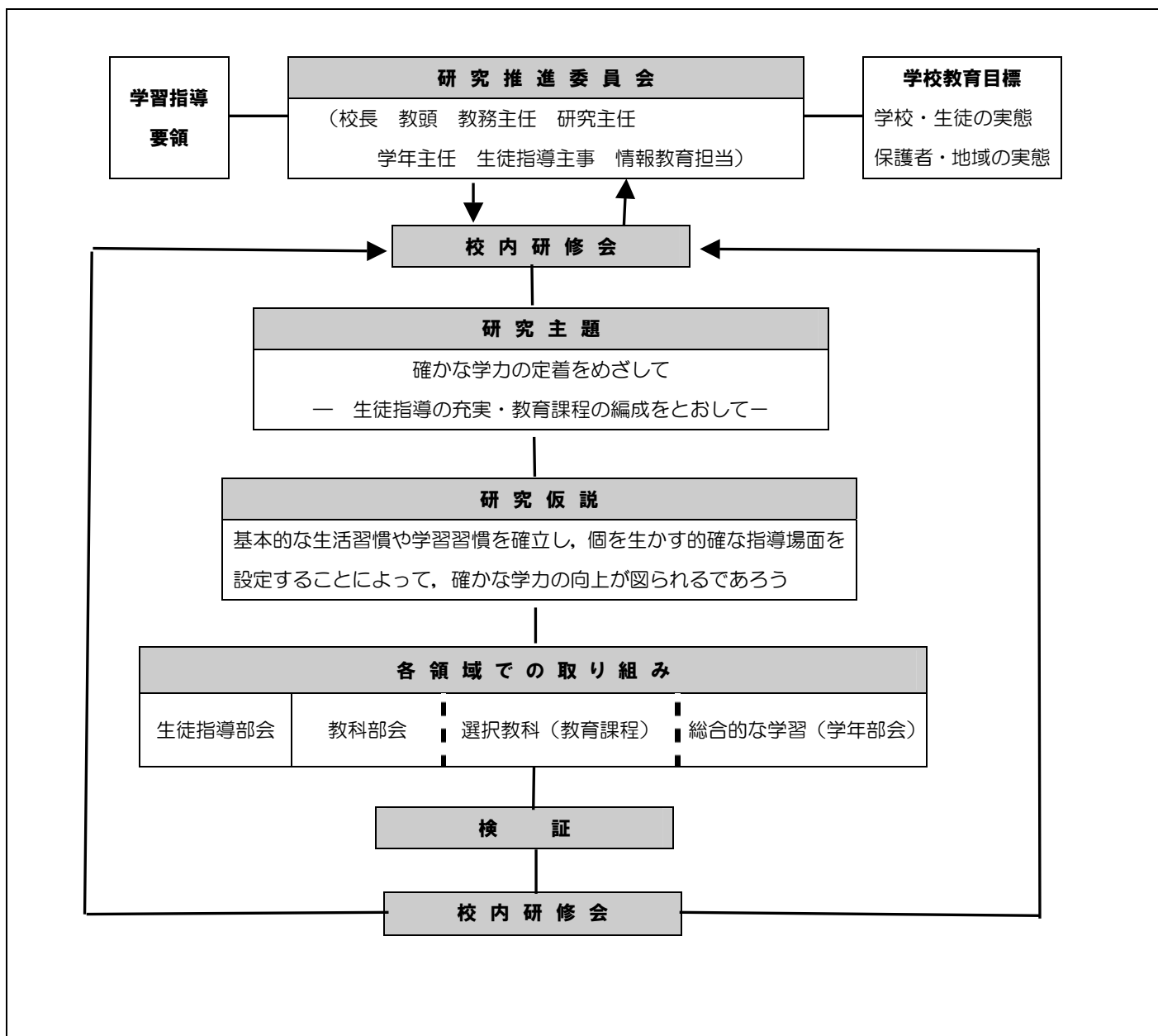
「選択教科」では、基礎・基本的な学習、課題学習及び発展的な学習、表現力の活用・育成等をめざして全学年取り組んでいく。

**＜教科による取り組み＞**

全教科で確かな学力の定着を目指し、教科研究実践に向けた教職員のチームティーチング指導体制を可能な限り実践する。そのなかで、各教科で研究を重ね、評価と指導の一体化、習熟度別学習等授業改善に取り組んでいく。

平成16年度

## (2) 研究推進体制



## Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 《生徒指導の充実》

T・Tの授業を組むことで生徒に目が届き、個に応じたきめ細かい指導ができるようになり、基礎・基本の理解が深まり、基本的な生活習慣や基本的な学習習慣も身につくようになった。

生活アンケートを月1回実施しているが、いじめや不正を許さない自浄作用がずいぶん高まってきていることが、アンケート結果よりうかがえるようになった。その結果、器物破損や非常ベル等のいたずらに対する目撃情報等もスムーズに得られるようになった。

生徒会を中心としたボランティア活動も活発化し、校内美化活動、校区内の清掃美化活動等に、多くの生徒が取り組むようになり、例年夏休みに実施されていた育友会主催の除草作業も今年度は、生徒主体のプロジェクトCと合体し、環境整備事業として除草作業と平行しながら校舎内の修理・営繕作業にまで取り組んだ。

セーフティネットワークを構築し、保護者・地域・各種団体による教育環境の充実を図ってきたが、「自分たちの子は自分たちで守る」という保護者の意識啓発、「地域の子は地域で育てる」という地域の意識啓発が浸透し、

その結果、各種行事等への保護者の参加が増えてきた。また、地域からの情報提供や行事への参加も増えてきた。

不登校生徒への対応として、不登校支援組織の構築、不登校生徒対応研修・教育相談の充実に取り組んだ。その結果として、今年度は不登校生徒は1年1名、2年0名、3年2名とずいぶん減り、休みがちではあるが、教室へ復帰した生徒、少年センターの通級を通して自分なりの生き方に前向きに取り組むようになった生徒も出てきた。

## ＜教育課程の編成＞

本校では教育課程編制委員会で何度も検討を重ね、総合的な学習の時間・選択教科も含めて全職員の意向を尊重しながら、教育課程を編制し取り組んだ。また、1人教科の音楽・美術を除く全教科でT・Tを組んで確かな学力の定着をめざして取り組んだ。その結果、複数の教師の目による落ち着いた学習環境が確立され、理科の実験や技術・家庭科の情報分野でのいたずらや器物破損が激減した。

T・Tの授業形態では、T・Tを行わないよりも行った方が、下位の生徒をはじめ全体的に学力の向上が図られたことが顕著に表れた。さらに教科によっては、部分的に習熟度別学習を取り入れて実践しているが、大部分の生徒が自分にあったコースを選び、意欲的に取り組んでいる。また、アンケート結果では自分にあった内容を学習することができてとてもよかったという感想がほとんどである。

「総合的な学習」において1年生では社会見学学習において自分たちで事前に見学場所を決めてまわることで、課題に対して班で話し合っ自分たちで積極的に解決していこうとする力を身につけさせようとした。見学したことについて各学級で発表し、自分たちの考えを表現する力を身につけさせようとした。

2年生では文化祭、修学旅行を大きな節目として「遠くまで行くんだ、14歳の旅」というスローガンで取り組んだ。生徒自ら課題を見つけたり、どうすれば解決できるか考えたりする力を身につけさせようとした。表現や伝達の技能を教えあったりすることもでき、生徒同士で知恵や力を出し合うきっかけが生まれた。

3年生では「ものづくり」でものをつくる難しさを体験させ、困難なとき自分たちで話し合い解決していく力を身につけさせようとした。外部指導者の説明を聞く姿勢はよかった。新聞記者、聴導犬育成の方など社会人や、現役高校生から話をきいて真剣に自分の進路を考えるようになった。

選択教科について生徒は目的意識をもって基礎・基本的な学習、課題学習及び発展的な学習、表現力の活用・育成等をめざして学習に取り組んだ。基礎・基本を身につけそれぞれの生徒が個性の伸長をはかることができた。

## ＜教科による取り組み＞

### [数学科]

成果

- ・T・Tや習熟度別学習では生徒の質問が増え、個にあわせて指導ができやすくなった。あわせて生徒からも質問がしやすくなったという感想も寄せられている。また数学がわかりやすくなったという生徒が若干だが増えてきている。

課題

- ・学習内容別のT・Tの授業形態について各1単位授業での授業形態について研究を深めたい。
- ・単元のまとめのコース選択は、より適切な問題（コース）を選択できるような方法についてさらに研究を進めたい。
- ・家庭学習について、課題の出し方やその方法が適切だったかをどのように検証していくかについて研究を進めたい。
- ・評価規準・基準の見直しと評価方法の工夫についての研究をさらに深めたい。

## 【英語科】

### 成果

- ・ 少人数学習において単語や英文などのリピートをグループ内生徒全員ができるようになり、1時間の授業で英語を話す機会が増えて、一斉授業では英語を言えなかった生徒が積極的に発音するようになった。
- ・ 習熟度別学習では学力に応じた教材の内容を設定しているので生徒は自分の学力にあった教材に目的意識をもって取り組むことができるようになった。

### 課題

- ・ 今後通常の授業での少人数学習、習熟度別学習で分けた場合の評価の工夫
- ・ 自分にあったコースを選ばせるためのガイダンスの工夫
- ・ 少人数のグループの中でもまだどうしても学力の定着が困難な生徒への手立て

## 2. 今後の課題

### 《全体の取り組み》

- ・ 学力を前述のとおり「学ぶ姿勢、心」を基にして、教科等の授業で身につけた基礎・基本を基にする学力、社会に求められる「コミュニケーション能力」等多面的にとらえている。各々の学力をどこまでのばすかという見通し、どの段階をもって達成できたと判断するのか、学力がどの程度定着しているか検証する方法を検討していきたい。
- ・ 知識技能の評価はもとより自ら学び考える力などの評価、子どものよさや可能性、進歩の状況などの評価（きめ細かい把握）、一人一人を大切にする評価など方法を模索してきた。更に各教科部会で作成した評価規準や評価基準などの見直しを行うとともに総合的な学習等の他領域においても学力の達成に評価規準を考える必要がある。
- ・ 学力を身につけるためには生徒一人一人に基本的な生活習慣、基本的な学習習慣が身につけることが重要である。本校では生徒指導加配教員を頂いて生徒指導面に力を入れている。現在少しずつ良くなってきてはいるが、内在している課題が解決できているというわけではない。今後も生徒指導には力を入れていきたい。
- ・ 教科指導加配教員を頂いてT・Tを組み、学習環境の改善、指導方法の工夫等に取り組んできた。今後もさらに確かな学力の定着をめざすために、指導方法・指導体制を工夫しながらT・Tによる個を生かしたきめ細やかな学習指導を進めていきたい。
- ・ 今後も朝自習（朝読書を含む）の充実や、家庭にも働きかけ家庭学習の取り組みを充実していくこと等で、基本的な学習習慣を身につけさせる手立てを講じていきたい。

## Ⅳ 学力把握のための学校としての取組

平成16年3月学習実態アンケートと授業改善アンケート実施（予定）

平成16年度は生徒の学習状況の変容を把握するための調査の実施を検討（予定）

## Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年8月19日 諫早市教科等指導員 研修講座 中学校数学科  
実践発表「数学科におけるT・Tの効果的な評価について」
- ・ 平成15年8月26日 諫早市教科等指導員 研修講座 中学校英語科  
実践発表「個に応じた指導のための指導方法の工夫」
- ・ 平成16年1月13日 諫早市1月定例校長会実践発表
- ・ 平成16年1月19日 学力向上フロンティア事業第2回地区研究協議会事例発表
- ・ 平成16年2月9日 諫早市内小学校中学校研究主任研修会 学力向上フロンティアスクール指定校実践発表  
「確かな学力の定着をめざして ― 生徒指導の充実・教育課程の編成をとおして ―」
- ・ 平成16年2月24日 3M（御館山小・本野小・明峰中 小中授業交流）紹介
- ・ 平成16年3月諫早市全小・中学校へ中間紀要配布



【新規校・継続校】

■ 15年度からの新規校

□ 14年度からの継続校

【学校規模】

3学級以下

4～ 6学級

7～ 9学級

10～12学級

13～15学級

16学級以上

【指導体制】

■ 少人数指導

■ T・Tによる指導

□ その他

【研究教科】

国語

社会

数学

理科

外国語

音楽

美術

技術・家庭

保健体育

その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

■ 有

□ 無